環境会計

当社では、環境施策に関わる投資や費用を定量的に把握し、その効果を知るため、環境省「環境会計ガイドライン」を参考に環境会計の集計を行っています。

2018年度は、鳥栖工場において作業環境改善のための空調工事を行ったため、公害防止コストが増加しています。

●環境保全コスト

対象範囲：久光製薬単体　　集計期間：2018年3月～2019年2月

分　類	2016年度		2017年度		2018年度	
	(千円)	前年比%	(千円)	前年比%	(千円)	前年比%
公害防止コスト	25,331	91	20,661	82	68,165	330
地球環境保全コスト	320,678	410	150,553	47	63,856	42
資源循環コスト	154,317	102	183,890	119	146,573	80
上・下活動コスト	14,290	100	14,340	100	16,170	113
管理活動コスト	59,208	108	61,918	105	60,797	98
社会活動コスト	12,934	95	8,156	63	4,940	61
環境損傷対応コスト	375	97	724	193	719	100
その他	1,660	208	0	0	0	84
合　計	588,793	171	440,242	74	361,220	84

※上・下活動コストの集計方法を変更しました

●環境保全効果

分　類		環境負荷量			環境負荷増減量		
		2016年	2017年	2018年	2016年	2017年	2018年
エネルギー使用量	千GJ	542	529	515	2	−13	−14
CO_2排出量	t	30,068	28,005	26,792	−1,861	−2,063	−1,213
SOx排出量	t	2	2	2	0	0	−1
NOx排出量	t	5	5	4	−2	−1	0
水使用量	千㎥	167	177	176	6	10	−1
排水量	千㎥	83	92	90	16	9	−2
BOD排出量	t	14	12	12	−2	−2	0
廃棄物排出量	t	4	4	4	0	0	0

久光製薬ミュージアムZEB認証

2019年2月に、創立170周年事業の一環として当社九州本社内に完成した「久光製薬ミュージアム」において、創エネルギーを含めた省エネ率103%を達成し、佐賀県で初となる建築物省エネルギー性能表示制度(BELS:Building Energy-efficiency Labeling System)の最高ランク「☆☆☆☆☆」である「ZEB(Zero Energy Building)」認証を取得しました。

屋根の断熱強化や空調設備等の省エネ化に加え、各種センサー設置による設備機器の運転制御など、省エネ技術を適切に組み合わせることで、高い省エネ率が可能となりました。また、創エネルギーとして太陽光発電を行っています。

久光製薬ミュージアムでは、当社の歴史と伝統を後世に発信するとともに、環境に配慮した取り組みを推進してまいります。

経済とのかかわり

- 会社概要・連結業績推移
- 医療用医薬品
- 一般用医薬品
- 輸出商品・国外製造商品

会社概要・連結業績推移

会社概要　(2019年2月末現在)

商　号	久光製薬株式会社 (HISAMITSU PHARMACEUTICAL CO., INC.)
創　業	1847年 (弘化4年)
設　立	1944年 (昭和19年) 5月22日
資本金	8,473百万円
従業員数	2,792名 (連結) ・1,596名 (単体)
代表者	代表取締役社長　中冨 一榮
本　社	九州本社 (本店) 、東京本社
支　店	札幌支店、仙台支店、東京第一支店、東京第二支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、台北支店、シンガポール支店、マニラ支店
営業所	さいたま営業所、千葉営業所、横浜営業所、金沢営業所、京都営業所、高松営業所
工　場	宇都宮工場、鳥栖工場
研究所	筑波研究所、鳥栖研究所
国内子会社	株式会社CRCCメディア (福岡県) 佐賀シティビジョン株式会社 (佐賀県) 株式会社タイヨー (佐賀県) 久光エージェンシー株式会社 (福岡県)
海外子会社	ヒサミツ ユーエス インコーポレイテッド (米国) ヒサミツ アメリカ インコーポレイテッド (米国) ノーベン ファーマシューティカルス (米国) ヒサミツ ファルマセウティカ ド ブラジル リミターダ (ブラジル) ヒサミツ ユーケー リミテッド (英国) ヒサミツ イタリア S.r.l.(イタリア) ヒサミツ ベトナム ファーマシューティカル カンパニーリミテッド (ベトナム) 久光製薬技術諮詢 (北京) 有限公司 (中国) 久光製葯 (中国) 有限公司 (中国) 久光製藥 (香港) 有限公司 (中国) PT. ヒサミツ ファルマ インドネシア (インドネシア) 他3社

連結損益計算書

(百万円)

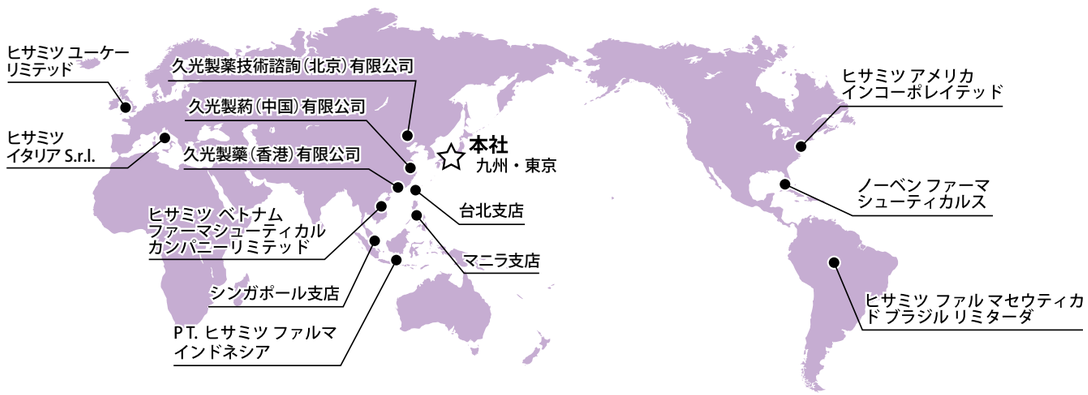
	2018年2月期実績	2019年2月期実績
売上高	148,466	143,408
売上原価	55,688	54,727
原価率	37.5%	38.2%
販管費	65,836	66,401
販売促進費	13,227	13,283
広告費	10,987	13,089
研究費	15,076	13,032
その他	26,545	26,995
営業利益	26,940	22,278
経常利益	28,245	24,647
親会社株主に帰属する当期純利益	19,119	19,204

連結貸借対照表

(百万円)

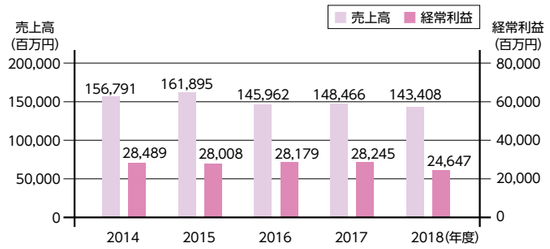
科目	2018年2月期実績	2019年2月期実績
資産の部		
流動資産	190,065	193,569
固定資産	109,847	103,942
有形固定資産	40,064	39,556
無形固定資産	4,100	1,990
投資その他の資産	65,683	62,394
資産合計	299,913	297,512
負債の部		
流動負債	34,938	30,354
固定負債	19,747	18,996
負債合計	54,686	49,350
純資産の部		
株主資本	216,021	222,189
その他の包括利益累計額	27,679	24,284
新株予約権	299	392
非支配株主持分	1,227	1,295
純資産合計	245,227	248,161
負債純資産合計	299,913	297,512

●久光製薬グループ活動拠点

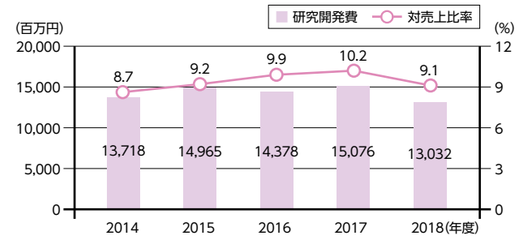


連結業績推移

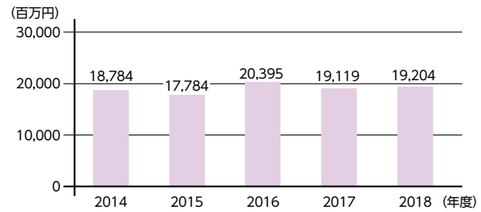
●売上高／経常利益



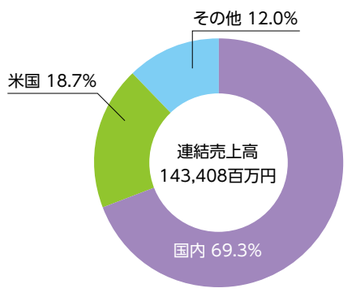
●研究開発費および対売上比率



●親会社株主に帰属する当期純利益

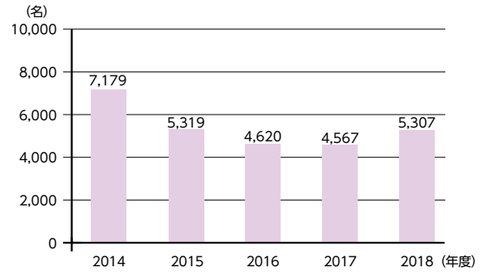


●地域別売上高構成比

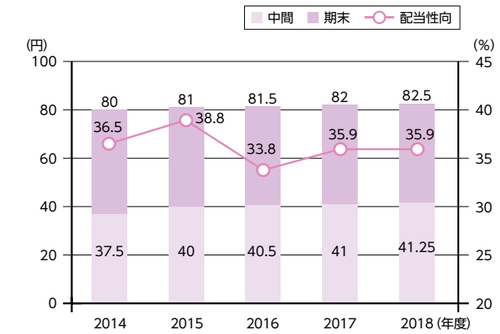


配当金について

●株主数の推移



●1株当たり配当金の推移／配当性向

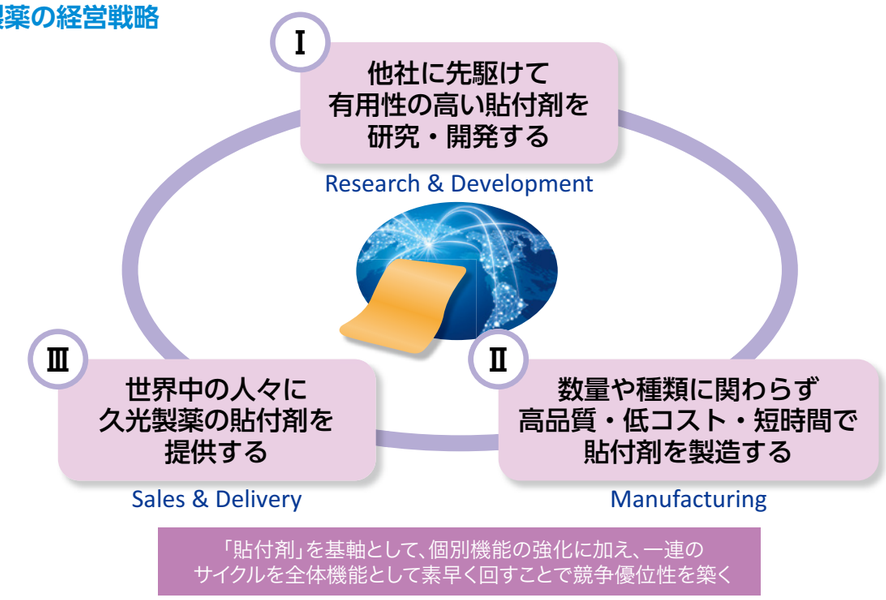


第6期中期経営方針について

2017年4月、当社は第6期中期経営方針を発表しました。国内外の医薬事業に関わる社会環境の変化やSDGsなどにみられるグローバルな健康課題への関心、さらに、国内でのGPIFの取り組みなど投資環境の変化や非財務側面の重要性の高まりなど、第5期中期経営方針の前提条件が大きく変わってきました。当社は、久光製薬グループが推進すべき取り組みの変化を考慮し、第6期中期経営方針の策定に至りました。

本方針では、「営業活動」「研究開発活動」「生産活動」「その他の活動」という4つの領域で克服すべき具体的な課題を掲げています。中でも「その他の活動」では、企業としてのあるべき基盤をさらにステップアップするため、これまでCSR活動として取り組んできたことをより明確に示しました。

久光製薬の経営戦略



第6期中期経営方針の実行プラン

【営業活動】 Ⅰ

国内・一般用医薬品事業
- ✓ 新領域と既存領域での価値創出

国内・医療用医薬品事業
- ✓ 事業の最適化とその後の拡大

海外・一般用医薬品事業
- ✓ 拠点所在国と周辺国へのリソースの集中

海外・医療用医薬品事業
- ✓ アジア諸国への積極進出とNoven社の最適化

【研究開発活動】 Ⅱ

- ✓ 既存品や競合品と明確に差別化した貼付剤の研究・開発
- ✓ 久光グループにおける開発テーマの一元化の推進
- ✓ 新規基盤技術の開拓

【生産活動】 Ⅲ

- ✓ 高効率な生産体制の追求
- ✓ 製造品質・生産技術の向上
- ✓ 海外生産拠点の能力拡大

【その他の活動】 Ⅳ

- ✓ 業務効率化
- ✓ 人材育成の強化
- ✓ 久光グループにおけるESGの推進

企業価値創出を目指した行動の実施と体制の整備

「第6期中期経営方針」の実行プランと進捗

「第6期中期経営方針」実行プラン			2018年度の取り組み
営業活動	国内・一般用医薬品事業	新領域への積極的な進出と活動強化 顧客視点での継続的な商品改良の実施 国内・一般用医薬品市場内におけるプレゼンス向上	■「ブテナロック®Vα クリーム18g、液18mL」新発売 ■「ブテナロック®除菌抗菌スプレー」新発売 ■「サロンパス®」120枚入 新発売 ■「のびのび®サロンシップ®Fα」新発売 ■「のびのび®サロンシップ®F」新包装発売 ■「フェイタス®Zα ジクサス®温感」新発売 ■「アレグラ®FX」56錠入 新発売
	国内・医療用医薬品事業	疼痛領域へのリソースの集中 ライセンス活動の強化 生産性の向上	■経皮吸収型持続性疼痛治療剤「フェントス®テープ(HFT-290)」の「0.5mg」新用量追加に関する承認事項一部変更承認取得 ■経皮吸収型持続性疼痛治療剤『フェントス®テープ(HFT-290)』の「0.5mg」新用量薬価基準収載および発売 ■HP-3000(経皮吸収型パーキンソン病治療剤)の国内販売に関する契約締結 ■経皮吸収型 アレルギー性鼻炎治療剤「アレサガ®テープ4mg、同8mg」新発売
	海外・一般用医薬品事業	サロンパス®のブランド価値最大化 自社貼付剤の上市と育薬 米国・アジアでの活動強化と現地化の推進	■「Salonpas®」が一般用医薬品市場鎮痛消炎貼付剤カテゴリーにおいて販売シェア世界No.1ブランドに2年連続の認定 ■経皮吸収型 過活動膀胱治療剤「OABLOK®PATCH」の台湾における製造販売承認取得 ■Noven 社においてFDA Warning Letter 解除
	海外・医療用医薬品事業	アジア市場への本格的参入 日米における医療用医薬品の水平展開 米国・ノーベンが持続的に利益を創出できる体制の構築	
研究開発活動	既存品や競合品と明確に差別化した貼付剤の研究・開発 久光グループにおける開発テーマの一元化の推進 新規基盤技術の開拓		■HP-3000(経皮吸収型パーキンソン病治療剤)の国内製造販売承認申請 ■HP-5070(経皮吸収型原発性局所多汗症治療剤)の国内第Ⅱ相臨床試験開始 ■経皮吸収型持続性疼痛治療剤「フェントス®テープ(HFT-290)」のオピオイド鎮痛剤未使用患者に対する国内第Ⅲ相臨床試験において、主要評価項目を達成 ■HP3070(経皮吸収型統合失調症治療剤)の米国FDAへの新薬承認申請
生産活動	高効率な生産体制の追求 製造品質・生産技術の向上 海外生産拠点の能力拡大		■製造工程、製品輸送方法及び空調機等の効率化 ■電力・重油等のエネルギー使用量及び廃棄物削減 ■廃棄物のリサイクル率99%以上の維持 ■環境にやさしい商品づくりによる環境負荷低減 ■工場・オフィスにおける省エネ活動によるGHG(温室効果ガス)排出量の低減

医療用医薬品

当社は、経皮吸収型貼付剤を中心として、医療機関への適正かつ、きめ細やかな学術情報活動、すなわち有効性・安全性に関する情報の提供・収集活動を展開するとともに、ケトプロフェン含有の経皮鎮痛消炎剤「モーラス®テープ」、「モーラス®パップXR」、「モーラス®パップ」、経皮吸収型エストラジオール製剤「エストラーナ®テープ」、鎮痛効果の高いフェンタニルクエン酸塩含有の経皮吸収型持続性疼痛治療剤「フェントス®テープ」、オキシブチニン塩酸塩含有の経皮吸収型過活動膀胱治療剤「ネオキシ®テープ」などの適正使用推進活動に努めました。

2018年4月には、経皮吸収型アレルギー性鼻炎治療剤「アレサガ®テープ」、2018年12月には、経皮吸収型持続性疼痛治療剤「フェントス®テープ」の新用量「0.5mg」の販売を開始しました。

主な商品

モーラス®テープ

モーラス®パップXR

モーラス®パップ

エストラーナ®テープ

ネオキシ®テープ

アレサガ®テープ

対処すべき課題

国内の医療用医薬品事業につきましては、高齢化が急速に進行する中、後発品使用促進策の強化や長期収載品の薬価追加引き下げなど、今後も医療費抑制策は継続されることが予想されます。このような厳しい経営環境のもと、当社は、医療機関への学術情報活動を一段と強化するとともに、医療機関・患者さんのニーズに合致した新しい局所性および全身性の医薬品開発を目指します。

●商品別売上高

(百万円)

	2018年2月期 実績	2019年2月期 実績
フェントス®テープ	4,917	4,852
ノルスパン®テープ	2,079	2,060
ネオキシ®テープ	834	696
アブストラル®舌下錠	217	209
アレサガ®テープ	–	230
モーラス®テープ群	49,552	41,929
モーラス®パップ群	8,399	7,447
その他	7,508	9,957
医療用医薬品計	73,509	67,384

一般用医薬品

国内の一般用医薬品事業は、経皮鎮痛消炎剤などの販売に加えて、新商品を投入し、新規顧客創造に努めました。

2018年3月には、新容量の水虫・たむし治療薬「ブテナロック®Vαクリーム18g、同液18ml」、2018年4月には、雑貨品の「ブテナロック®除菌抗菌スプレー」、〈冷感〉経皮鎮痛消炎シップ剤「のびのび®サロンシップ®Fα」と経皮鎮痛消炎プラスター剤「サロンパス®120枚入」、2018年5月には、新包装の〈冷感〉経皮鎮痛消炎シップ剤「のびのび®サロンシップ®F」、2018年9月には、ジクロフェナクナトリウム配合温感テープ剤「フェイタス®Zαジクサス®温感、同温感大判」、2019年1月にはアレルギー専用鼻炎薬「アレグラ®FX56錠」の販売を開始しました。

主な商品

サロンパス®

フェイタス®Zαジクサス®

のびのび®サロンシップ®

エアー®サロンパス®

ブテナロック®

アレグラ®FX

対処すべき課題

国内の一般用医薬品事業につきましては、市場の低迷が長期化し企業間競争が激化する中で、当社は、外用鎮痛消炎剤の売上伸長を図るとともに、お客さまのニーズにお応えできるよう既存商品の改良および新商品の開発を行います。

●商品別売上高

(百万円)

	2018年2月期 実績	2019年2月期 実績
サロンパス®群	10,719	11,289
サロンシップ®群	3,240	2,240
エアー®サロンパス®群	993	1,057
フェイタス®群	5,178	5,811
ブテナロック®群	1,568	1,672
アレグラ®FX	3,365	4,509
その他	1,799	1,948
一般用医薬品計	26,865	28,529

輸出商品・国外製造商品

サロンパス®ブランドは国外においても積極的な販売促進活動を展開し、アメリカのOTC医薬品(一般用医薬品)市場の鎮痛消炎貼付剤市場における販売額シェア1位(2018年1月から2018年12月 累計販売金額)を獲得しています(Information Resources, Inc.)。

主な商品

SALONPAS®

Salonpas®
Pain Relieving Patch

Salonpas® Pain Relief Patch

Salonpas® LIDOCAINE
Pain Relieving Gel-Patch

ByeBye-FEVER®

MOHRUS® PATCH

Minivelle®

Daytrana®

Salonpas®が3年連続で販売シェア世界No.1ブランドに認定

ユーロモニター社より、「Salonpas®」がOTC医薬品(一般用医薬品)市場の鎮痛消炎貼付剤カテゴリーにおいて、2016年から3年連続で販売シェア世界No.1ブランドの認定を受けました。また、同カテゴリーにおいて「久光製薬」が2年連続で販売シェア世界No1企業の認定を受け、2019年5月17日に認定証を授与されました。

対処すべき課題

国外の事業展開につきましては、知的財産、製造技術および品質管理技術を含めた当社ブランドの確立を図るとともに、国外生産工場の一層の充実と国外における臨床試験の促進を図ります。

特にアメリカの医療用医薬品事業においては、ノーベン社を拠点とし、双方の得意な技術を融合させることで、研究開発の機能を高めるとともに製造を強化してまいります。

●商品別売上高

(百万円)

	2018年2月期 実績	2019年2月期 実績
モーラス®テープ群	183	186
その他	942	1,029
Minivelle®	7,628	6,098
Vivelle-Dot®群	4,839	4,190
CombiPatch®群	4,176	4,428
Brisdelle®	−116	0
Daytrana®	3,170	2,520
Noven その他	687	43
医療用医薬品計	21,512	18,497
サロンパス®群	18,671	21,772
サロンシップ®群	1,433	1,173
エアー®サロンパス®群	722	732
その他	2,325	1,872
一般用薬品 計	23,154	25,550

第三者意見

慶應義塾大学大学院
ビジネススクール教授
小林 喜一郎

ESG推進を発表した第6期中期経営方針の3年目に当たる本年においては、過去2年間を振り返りながら、この動きをより具体化し深耕する1年にして頂ければと思います。中冨会長、中冨社長もCSR報告書の冒頭で、統合的なESG推進のための組織の整備と基本情報の精査に言及されておられ、ますます久光製薬の社会責任領域の動きが加速するものと期待しております。

本第三者意見では過去1年間における新たな取り組み、あるいは前年度と比較して改善した点を中心に評価をさせて頂きたいと思います。

まず昨年に引き続き、グローバルCSRの実態が取り上げられております。本年は医療関連市場の伸長著しい中国における久光現地法人に焦点が当たっており、現地社員のCSRへの意識が報告されております。中国では製造拠点こそありませんが、現地の人材を雇用し、製品販売を通じた現地市民のQOL向上を使命としながら、スポーツ振興や健康啓発活動、さらには現地人材のキャリアアップ支援などの活動にも力を入れていることは評価できます。また上海地区最大級の薬局チェーンであるSinopharm社代表を訪問し医薬流通側の要望をヒアリングしたことは、久光の標榜するステークホールダー・エンゲージメントが良く出ている活動であると思います。現地企業とも協力しつつ、CSR活動を共有・推進していこうという姿勢は評価したいと思います。海外と日本の売上比率を半々にするという目標を掲げる久光製薬は、今後もグローバルでの協力関係を模索しながら、久光製薬の理念とそれに裏打ちされたCSR活動を展開し、世界で評価される企業になって頂きたいと切に願います。

来年の東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャルパートナーである久光製薬は、同競技大会組織委員会に会社を代表して3名の方を出向させています。彼らのインタビュー内容からは、組織の外に出向されたことで、あらゆる人の集まる場における利害調整の難しさ、人権・多様性・安全性・持続可能性への配慮等、身をもって経験されておられます。これは久光社内でのCSRへの取り組みと相通じる課題でありテーマでもあります。東京2020組織委員会に参加された中堅の方々は、特に近い将来、久光内でのCSR活動のさらなる推進に貢献して下さることを期待しております。同時にスポーツを通じて社会貢献を積み重ねてきた久光製薬の方向性とも合致し、これをバネにさらなるスポーツCSR活動を加速して頂きたいと思います。

久光製薬はグループを挙げてESG推進を目指していますが、中でも特にE(環境)に関わる環境マネジメントシステムISO45001と、S(社会)に関わる労働安全衛生マネジメントシステムISO45001の統合認証を目指し、活動を行っていると聞いております。この統合認証が実現すれば、久光製薬の言うEHS(Environment, Health, and Safety)の社内的管理活動がさらにシステマティックになることが期待できます。

また久光製薬の技術的強みであるTDDS(Transdermal Drug Delivery System：経皮薬物送達システム) をさらに深耕させ創薬を行いつつ、モーラス®パップやのびのび®サロンシップ®などの改良薬も新たに販売しており、引き続き顧客との関わりを企業活動の中心に据えていることは良いことです。あわせて「久光製薬安全性情報」を年1～2回の頻度で発行しておられますが、実際に薬剤を処方する現場への情報ディスクロージャーはさらにタイムリーに行っていって頂きたいと思います。

従業員との関わりでは、グローバル人材の育成に引き続き励まれるとともに、女性活躍の場をさらに増やすなどの努力は評価できます。特にワークライフバランスはESGのSの重要な項目の一つであり、上昇傾向にある有給取得率の更なる向上努力を進めて頂きたいと思います(WAKUWAKU連続休暇制度)。

環境(E)との関わりにおいては、トータルで見たエネルギー使用量・CO_2排出量ともに減少傾向にあります。工程の改善、スマートエネルギーの利用、サプライチェーンの改善は、「カイゼンに終わりはない」という気概を持って、さらにこれを進めていくことを期待いたします。また同社の歴史と伝統を発信する目的のもと2019年に完成した「久光製薬ミュージアム」という象徴的な建築物において、先端的省エネ技術を駆使し、佐賀県で初めてという建築物省エネ制度の最高ランク評価を獲得できたことは、久光製薬の姿勢を社内外に示す象徴的モニュメントとして非常に意味があると思います。

昨今日本政府も、「SDGs(持続可能な開発目標)が創出する市場・雇用を取り込みつつ、国内外のSDGsを同時に達成し、日本経済の持続的な成長につなげていく」(1)と言う目標を掲げ、社会を先導しております。さらには最近ではROESG(2)という指標を使って、企業の資本効率のみならず社会への貢献度を合わせた指標で企業をランキングする動きもあり、ますます企業の社会への責任活動が企業経営上重要性を増しています。この分野への取り組みで企業の真価が問われる時代となってきました。ESGも含め、CSRの深耕はまさに企業経営にとって待ったなしになる中、久光製薬への期待は高まっていくでしょう。

(1)「持続可能な開発目標」(SDGs) について：SDGsを通じて、豊かで活力ある未来を創る、外務省、平成31年1月
(2)「企業の持続性重視へ新指標」、日本経済新聞、2019年8月12日1面及び3面
→ROESGは伊藤邦雄・一橋大学特任教授の提起した考え方で、ROEとESGスコアの合成指標。
企業の資本効率性と社会・環境・ガバナンスへの取り組みを総合的に評価する指標。